



目指す学校像	新たな時代に向けて、伝統ある進学校としての期待に応えつつ、自主自立の校風を継承・発展させ、リーダーとなる良識ある人材を育成する。
--------	--

重点目標	<p>1 文武両道—学力向上と特別活動等を両立させ、高い目標に果敢にチャレンジする生徒を育成する。</p> <p>2 自己実現—様々な機会を通して視野を広めつつ、高い「志」を実現できる生徒・グローバルに活躍できる生徒を育成する。</p> <p>3 情報発信—積極的に情報を発信して、生徒・保護者・地域等からの期待と信頼に応える学校づくりを推進する。</p>
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学校自己評価					年度評価(1月26日現在)		
年度目標					年度評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>○学力向上の取組と進学指導の結果、進学状況は良い方向に進んでいる。新学習指導要領の対応を含め、質の高い授業と体系的な指導を継続する必要がある。</p> <p>○行事、部活動ともに生徒は積極的に取り組んでいる。地域と連携した活動を増やし、生徒の成長を促す。</p>	<p>自立した学習者を育成する。高度な授業内容の構築と指導方法の工夫、改善をする。第一志望の進学者を増やす。</p> <p>教職員一人一人が高い意識を持ち、特別活動等の質の向上を図る</p>	<p>①入学当初から、学習法講座や卒業生講話を実施し、長期休業中の講習を含め授業以外の学習にも目を向けさせる。</p> <p>②主体的対話的で深い学びやICTを活用した学習を実践するなど、授業改善に取り組む。</p> <p>③進学情報収集と生徒への情報提供をこまめに行う。</p>	<p>①自主ゼミ・進学講習の開講状況及び参加状況の変化</p> <p>②「授業に関する生徒アンケート」結果の変化</p> <p>③国公立大学、上位難関私立大学の合格者数の変化</p>	<p>①夏季休業中の進学補習に2326件の申し込みがあった。(R3:1973件、R2:521件)</p> <p>②生徒アンケートでは授業理解:85.4%、授業レベル:90.8%が肯定的意見。</p> <p>③昨年度、国公立大学の現役合格は140名、模試の分析等では昨年度並みの合格者を予想。</p>	A	<p>・学年進行で生徒端末を整備するため、ICTを活用した効果的な学びの拡充が必要となる。授業相互見学週間をとおし、効果的なICT活用方法の共有を行う。</p>
2	<p>○生徒は切磋琢磨しながら充実した学校生活を送っている。新たな時代のリーダーとなる資質の向上を図り、高い「志」を実現させる取組を活性化させる必要がある。</p> <p>○学習習慣の確立のため、家庭と情報共有しながら協力してきめ細かい学習指導、進路指導を行う必要がある。</p>	<p>グローバルな視点を養う事業等を充実させ、生徒が高い志や目標にチャレンジする気概を育てる。</p> <p>校内指導の体制を連動させて、高い次元での進路希望を実現させる。</p>	<p>①本校の国際交流事業への参加を勧め、学校外の力も活用し生徒の意欲を高める。</p> <p>②「総合的な探究の時間」、「サイエンス探究事業」において主体的な学びを実践する。</p>	<p>①国際交流事業(エンバワメントプログラム、異文化理解交流等)の参加状況と生徒の参加前後の意識変化</p> <p>②参加生徒の事前事後研修への意識・意欲の変化と成果の全校生徒への還元</p>	<p>①エンバワメントプログラムは62名が参加、新たにウインターチャレンジを計画・実施(参加者21名)どちらの取組も参加生徒の評価は高い。</p> <p>②希望者82名がサイエンス探究に取り組んだ。「総合的な探究」「サイエンス探究」とともに生徒研究発表会では独創的な研究発表が数多くあり生徒の評価は高い。</p>	B	<p>・生徒一人一人の「志」の育成のために、参加者数、参加機会を増加させる必要がある。</p>
3	<p>○保護者向けに各年次からきめ細かく情報発信が行われている。地域に対しても効率的な広報をさらに進める必要がある。</p> <p>○感染拡大防止対策を徹底し、生徒が安全に学校生活を送れる仕組みを構築した。安心安全な学校づくりを一層進めていく必要がある。</p>	<p>本校の教育活動の情報発信を行う生徒保護者・地域社会等からの反応、参加がある。</p> <p>学習・生活環境を一層整備し向上させる。</p>	<p>①入試広報部を中心に学校説明会、進学フェア、土曜学校説明会等の広報を行い、各行事を発展させる。</p> <p>②「年次通信」を活用し保護者向けの情報発信をさらに進める。</p> <p>③メディア等の活用を行う。</p> <p>④ホームページを更新する。</p>	<p>①学校案内やポスター内容の作成時期及びアンケート評価、ホームページの閲覧数の変化</p> <p>②土曜公開授業見学者数およびアンケート結果の変化</p> <p>③メディアでの掲載数の変化</p> <p>④ホームページの更新数の変化</p>	<p>①HPの閲覧数は85万件と増加、保護者アンケートの情報発信の項目は97%が肯定的評価。</p> <p>②土曜公開授業並びに学校概要説明会の参加者数は昨年度から17%増加。</p> <p>③くすのき祭の活動がテレビ放映、部活動等の成果が埼玉新聞等に複数回掲載。</p> <p>④学校HPを240回以上更新。</p>	A	<p>・HPの閲覧数が増加していることから、HPの掲載内容の見直しを行い情報発信力を高める。特に部活動の情報は更新回数を更に増やす必要がある。</p>
			<p>①校内の安全点検等を通じ危険箇所や破損施設の改善を迅速に行う。</p> <p>②一斉メールの運用やホームページでの緊急連絡など、危機管理体制を構築し、緊急時生徒用備蓄品を整備する。</p>	<p>①対応が必要な施設設備の改善状況</p> <p>①清掃活動の変化</p> <p>②一斉メールの活用状況、緊急時生徒用備蓄品の整備状況</p>	<p>①施設・設備の整備状況のアンケート結果は満足度84%であり、前年度に比べ上昇。</p> <p>②年間26件の一斉メールを送信、緊急時備蓄品を整備し整備状況をHPに掲載。</p>	B	<p>・緊急時に円滑に保護者連絡が行えるよう、継続的に一斉メールを活用し保護者への情報提供を充実させる。</p>

学校関係者評価	
実施日 令和5年2月3日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・進学補習の申込数が増加していることや成績上位者への働きかけを行うなど、生徒の進路実現のために様々な取り組みが行われていることは評価できる。	
・授業でもICT活用が求められているようだが、生徒の進路実現のためにもしっかりと研究を進めてもらいたい。	
・学校行事が川越高校の特色の一つと考えている。コロナの影響で実施が難しいものもあったと思うが、可能な限り従来の形で実施してもらいたい。	
・部活動について外部人材の力を借りるなど教員の負担軽減の取組が必要と考える。	
・「志」の育成という視点は大切、大学進学だけでなく、社会人となったときどのような志を持って進んでいくのか、そのような視点で生徒の「志」を育成して欲しい。	
・国際交流事業やサイエンス探究は参加生徒の意欲や自信を育てる良い機会であるので取組の充実を求める。	
・学校の取組に生徒が応えようという姿勢が感じられる。社会の変化に対応できるよう適切な指導やアドバイスを行って欲しい	
・HPを活用した学校の情報発信は大切であり、更なる充実を図って欲しい。	
・施設、設備についてはトイレをはじめ改修が行われているが、引き続き、学校生活を安全かつ快適に過ごせるよう必要な修繕等を進めて欲しい。	
・教室内の環境整備や席替えを行うなど教室での教員と生徒のコミュニケーションが充実するような工夫を行って欲しい。	